科目名	音楽ビジネス・マネージメント１							年度	2025
英語科目名	Music Business & Management 1							学期	前期
学科・学年	コンサート・イベント科　１年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	本多功一	教員の実務経験		有	実務経験の職種	舞台監督、コンサート制作			

【科目の目的】

アメリカ発祥の音楽ビジネスは、日本の学問としての歴史は浅い。しかし室町より舞台が芸能の特別な場として位置づけられた歴史もある。エンタテインメント産業に於ける業務としての舞台（ステージ）制作、プロダクションや音楽出版など権利ビジネスをベースにした事業展開について歌モノを中心として広く取り扱い、人対人というアナログな双方向について、幅広く業種や職種における必要な情報を整理・獲得し、常に知的好奇心やアイデンティティを持ったスタッフとして、パフォーマーとの共同作業者として活躍するために、幅広く領域をカバーし、ビジネスとしてセルフを含めた広義でのマネジメントスキルを身につけていく。

【科目の概要】

具体的な業務内容と各業種間での関連について解説していく。進化し続ける手法や手段と合わせ、各業種に求められるマネジメント能力について理解を深める。またそれに留まることなく、点として得た情報や知識を有効に機能させるため、音楽が生み出される社会そのものへの理解、ビジネス的視点、自分らしい見解、これらを獲得していく。そのためにはあらゆる事象に対して疑問を持ち続けアイディアを生み出していく。そのためには多角的な視座の獲得が肝要である。音楽にやや比重を置くが、歌モノに限定せず、エンタテインメント産業・イベント関連産業で働くためのマネジメント力を獲得し、活用できる人材になることを目指す。

【到達目標】

授業で伝達すべきねらいとして設定する履修目標・内容に対して、それを受講した際、習得意欲をもっての理解を到達目標とする
A.エンタテインメント産業に求められる資質を理解し、客観性と妥当性を備えた自分らしさを伴う意見を持つこと
B.進取の姿勢で得た新たな知識・情報を確実に習得し、獲得したそれらを結びつけることで理解をしていく
C.産業の全体像を把握し、産業間での連携や基本業務、用語などを確実に理解して現場に出る素地を形成していく

【授業の注意点】

授業開始時には筆記（入力）ができる状況にしておく。要点や不明点を書き出し調べ、解決ができないことは質問をする。知的好奇心を持ち続け、波及・派生した情報を自得していく。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	オリジナルな発想で関連業種を理解した上で工程を作成でき、制作過程全体を安全に実施できる。	経営的視点からビジネスとしての産業という視座を有し、不成功事例からの活用を引き出せる。	身近な事例、得意なジャンルなどを例にして、数ある現行の手法からベネフィットを一定理解する。	業務に対する職業人の思考から、その意図するところを理解できる。肯定できる理由を説明できる。	好き嫌いのみでの決定を脱し、他者の意見・文書をいったん自分に取り込み判断することが必要。
到達目標 B	広く得た知識を知恵として変換し、それらを活用することで文字・言語化して伝達する力を有する。	得意なジャンルに限らず知識を応用することで、各種の制作を実施するための基礎が備わっている。	参考図書を活用し、それらを理解しながら日々獲得する情報に加えていくことができる。	知的好奇心を持ち、興味のあることから身近な素材を使い、調べる習慣を体得することを求める。	情報の整理技術、各種セグメント実務に欠ける。問題点などをまとめる基本的な基礎力を求める。
到達目標 C	現場で困らないために必須な応用する力を有し、必要な情報活用能力を自得により醸成させている。	時系列で業務の受注、発注について理解し、いろいろなケースに応じて変化する実践の準備が整っている。	各業種での内容と関連業種について具体的なやりとりを理解している。	産業の理解を必要とし、各業種での内容と関連業種について作品（商品）の視点での把握を求める。	エンタテインメント産業の基本的な実務や、各業種に求められる考え方を理解していない。

【教科書】

授業内で使用する必要がある場合は配布、当日実施した授業内容の要点のまとめ、追加事項を毎回分Webでアップロードする

【参考資料】

逐次授業内で指示、予備的に情報を要求する場合は授業最後に、またWeb上で指示する

【成績の評価方法・評価基準】

定期試験、授業内課題、定期提出物、簡易試験

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	音楽ビジネス・マネージメント１	年度	2025
英語表記	Music Business & Management 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	オリエンテーション	高校までの学習との差異、受け身ではなく主体性を持つことは業務が前提である	1	業界全体の相関図	相関図を配布し、業種の広がりを確認する。	3	
			2	授業の進め方	高校までとは違う学びの方法について資料を配布し理解する。		
			3	基本的な生活習慣	挨拶、メモの取り方など、業務をイメージしてみる。		
2	プロダクションの機能	音楽産業の業務を事例から理解する	1	プロダクション機能	営業、宣伝、制作という業務の具体事例で理解をしていく	3	
			2	業務の受注と発注	プロダクションからの仕事の流れを事例から理解する。		
			3	会社としての機能	プロダクションの業態の違い、種類と団体について知る。		
3	関連産業	音楽産業にも演目や規模によっていろいろな業務があり、関わる内容が異なる	1	報酬と給与	演者への報酬とスタッフの給与との違いを理解する。	3	
			2	収支について	音楽産業をビジネスとして理解する。		
			3	日常的なコトバ	ビジネス上での専門用語について日常的な理解をしていく。		
4	イベントとは	コンサートは音楽イベントであるが、イベントを業務にした場合の基本的な理解	1	イベントとは	イベントの定義から、コンサートの目的を考える	3	
			2	業務としてのイベント	コンサートを含めたイベントの実施理由について理解する。		
			3	ケーススタディ	身近なイベントの目的を考え、資料から整理し理解する。		
5	舞台とは	ステージは特別な場所である。テクニカルについて現場での舞台に対する想い	1	舞台の種類	市民会館などでのコンサートのほかにある舞台を知る。	3	
			2	舞台と使用目的	演目と目的でステージを決定するプロセスを理解する。		
			3	特別な場所	舞台の歴史から、舞台での仕事について理解をする。		
6	マネジメント	マネジメントとはなにか、事務所業務だけでなく、マネジメントとのものを知る	1	マネジメント	経営者など多くの意味を有するマネジメントの概要を理解。	3	
			2	事例	プロダクションなどでのマネジャーに求める資質を理解する。		
			3	セルフマネジメント	まず、自分自身をマネジメントするきっかけを考察できる。		
7	各種団体	音事協や音制連だけでなく、業種ごとの団体と文化財団など目的をを理解する	1	音楽産業の団体	芸団協、音事協、音制連など簡単な芸能史から理解する。	3	
			2	関連団体	テクニカルやソフトなどの団体の目的を理解する。		
			3	文化財団	公的会館などとの関連、業務内容を理解する。		
8	メディア	各種メディアの機能と注意点	1	メディアとは	媒体とはそもそもなにか、身近なものとして理解しておく	3	
			2	メディアの機能	６大媒体の特徴と関連、関連法規について理解する。		
			3	メディアの規制	表現の自由と自主規制について、規制楽曲から考察してみる。		
9	紙媒体	ポスターやチラシなど身近な紙メディアについて、ビジネスとしての基本情報	1	新聞と雑誌	Web配信がある中、なぜ紙媒体は存在するのかを考察する。	3	
			2	種類と特徴	kgで表す厚さ、目的別の種類など基本知識として理解する。		
			3	効果を検証	FB率やポスティングの効果を検証して、使用目的を理解する。		
10	波媒体	波媒体の役割についてビジネスとしての基本情報	1	ポットキャスト	米国でのヒット理由と日本のAM/FMの精度の高さを理解する。	3	
			2	放送法と民放連	放送事業者とNNWの基本、CMの総量について理解する。		
			3	映像での効果	障がいに対する機能、また効果について検証し理解する。		
11	広告代理店	広告代理店とイベント、メディア戦略、広告など広告代理店の業務を理解する	1	影の仕掛人	代理店業務はイベントにおいて果たす役割を理解する。	3	
			2	電博	２社の業務内容を取り上げ、各種産業との関わりを理解する。		
			3	音楽産業と代理店	コンサートのクレジットと、代理店との関連を理解する。		
12	安全とは	安全第一を具体的な業務の中でどの活用していくのか、事例で考察する	1	舞台での安全第一	過去の事故例から、原因を確認して、実習などにも応用する。	3	
			2	事務作業の安全とは	事務的・人的ミスにより起きた事例から、日々の意識を持つ。		
			3	面倒くさがらない	安全帯、安全靴など安全対策も業務の一環であることを理解。		
13	基本文書	音楽雑誌、FCの会報、アフターレポートなど文字による文書表記の基本	1	国語と少し違う	開く漢字、記号の使い方など紙媒体企業得でのルールを理解。	3	
			2	文字で伝えること	企画書面からあいさつ文など、文書作成の基本を理解する。		
			3	事例で確認	ポスター表記など、紙面デザインの基本を理解しておく。		
14	企画から実施	初めて知る内容からこぼれ落ちている情報を再度確認して理解する	1	各業種の業務	相関図から、業種の流れ（業務と金銭）を確認し、理解する。	3	
			2	コンサート流れ	音楽に特化し、関連業種の流れを契約書から確認する。		
			3	舞台機構	ステージ機構の特性を理解して活用できるようにする。		
15	前期のまとめ	初めて知る内容からこぼれ落ちている情報を再度確認して理解する	1	権利の流れ	他科目で習った権利をケーススタディで確認、再理解をする。	3	
			2	好奇心の進度	用語集や聴かないジャンルなどへの取り組みを自己評価する。		
			3	試験範囲と復習	試験範囲は全体から出題するが、要点を再度確認する。		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等